



～ほ場により生育に差、状況にあわせた水管理を～

1 生育状況（6月25日現在）～草丈は平年より短い、茎数は平年より少ない～

○6月25日現在の生育状況（あきたこまち、5地点 表1 水稻定点調査結果（管内5地点 あきたこまち）平均）は、草丈は34.4cmで平年比95%、茎数は380本/m²で平年比81%、葉数は9.1葉で平年差+0.2葉です（表1）。

○6月中旬は気温が平年より高く、日照時間も平年より多かったため、茎数は、前回調査時の平年比74%から平年値に近づきました。しかし、ほ場間差が大きく、茎数の少ないほ場もあるため、ほ場を確認し、適切な水管理を行ってください。

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)
本年	34.4	380	9.1
前年	41.7	395	9.1
平年値	36.4	470	8.9
平年比・差 (%, ±)	95%	81%	+0.2

6月25日調査

○1か月予報（仙台管区气象台6月25日発表）によると、東北地方の向こう1か月の気温は、高い確率が50%となっており、降水量はほぼ平年並の見込みです。

7月 日	上旬			中旬		下旬	
	1	5	10	15	20	25	31
生育	最高分げつ期			幼穂形成期		減数分裂期	
	10葉期			11葉期		12葉期	
水管理	中干し	間断かん水 ※あきたこまちRの場合				湛水管理	
	中干し	間断かん水			湛水管理（出穂前後各3週間）		
	カドミウム吸収抑制対策の湛水管理は8月下旬頃まで						
作業	★斑点米カメムシ類対策						
	斑点米カメムシ類対策 ～畦畔除草～					草刈り禁止期間※	
	※稲の出穂10～15日前から収穫2週間前まで。ただし、出穂期10日後頃の薬剤散布後7日以内に一度草刈りを実施する。						

2 水管理のポイント ～こまちR以外ではカドミ吸収抑制対策徹底を～

○目標穂数と同程度の茎数を確保できたほ場は、中干しを実施して無効分げつを抑制します。

○中干しの期間は7～10日程度を目安に、田面に軽く亀裂が1～2cm程度入り、足跡がつく程度とし、遅くとも幼穂形成期までには終了してください。

○目標茎数がまだ確保できていない場合は、中干しの開始を遅らせるとともに、強い中干しは行わない管理をしてください。また、当面は気温が高い予報となっているので、土壌の異常還元に注意し、必要に応じて短期間の落水や間断かん水等を行ってください。あきたこまちR以外の品種は下記のカドミウム吸収抑制対策を優先した水管理を行ってください。

○あきたこまちR以外の品種については、カドミウム吸収抑制対策が必要です。カドミウム吸収抑制対策として行う出穂3週間前から出穂3週間後までの長期間の湛水管理に備え、中干しは遅れないようにしっかりと行ってください。

○あきたこまちRはカドミウム低吸収品種であり、対策期間中の湛水管理は必要ありません。そのため、中干し終了後は間断かん水とします。

3 除草剤（中・後期剤）の適性な使用

○残草のあるほ場が散見されます。中・後期除草剤の使用にあたっては、雑草の草種や生育程度に応じて適切な剤を選択してください。

○散布時期や散布時の水管理は、薬剤によって異なるので、ラベルをよく読み適正に使用してください。

表2 中・後期剤の適正使用基準及び秋田県内における推奨使用方法

農薬名	使用量	使用時期	使用方法・使用上の注意
レバラス10粒剤	1kg/10a	移植後14日～レバI3.5葉期 但し、収穫60日前まで	・雑草の種類により適期が異なるため注意。 ・多年生雑草、抵抗性雑草※に効果がある。
ツゲキ豆つぶ250	250g/10a	移植後14日～レバI4葉期 但し、収穫60日前まで	・雑草の種類により適期が異なるため注意。 ・稲が5葉期末満の場合、薬害を生じるおそれがあるため、使用しない。 ・抵抗性雑草※に効果がある。
ヒエックパエ-ス10粒剤	1kg/10a	移植後14日～レバI4葉期 但し、収穫45日前まで	・レバI、シバIを対象として使用する。 ・レバI4葉期まで効果は高いが、高葉齢のレバIは殺草日数を多く要するため早めに散布する。
クインチャー-10粒剤	1kg/10a	移植後7日～レバI4葉期 但し、収穫30日前まで	・レバI以外の雑草に効果はない。 ・残効性はない。 ・EWは使用当日に調製する。展着剤を加用し、10a当たり25～100Lの水に希釈後、落水状態で茎葉が均一に濡れるように散布する。
	1.5kg/10a	移植後25日～レバI5葉期 但し、収穫30日前まで	
クインチャー-EW	100ml/10a 散布液量 25～100L	移植後20日～レバI6葉期 但し、収穫30日前まで	
クインチャー-バースME液剤	1,000ml/10a 散布液量 70～100L	移植後25日～レバI5葉期 但し、収穫50日前まで	・散布液は当日に調製し、落水状態で茎葉が均一に濡れるように散布する。 ・薬害のおそれがあるので、展着剤は加用しない。 ・散布後7日は入排水を行わない。
バグラン液剤	500～700ml 散布液量 70～100L	移植後15日～収穫45日前まで	・レバIに対する効果はない。 ・薬害防止の為、稲5葉期以降に使用する。 ・散布後7日は入排水を行わない。

※抵抗性雑草はホタルイ、コナギ、アゼナ、オモダカ

4 主要病害虫の防除対策

①いもち病

○ほ場の見回りにより早期発見に努めてください。余り苗や感染苗の持ち込みから伝染を確認した場合は、直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス）を散布してください。

○葉いもちが発生している場合は、穂いもち防除として、出穂15～7日前にコラトップ剤またはゴウケツ粒剤（サンブラス粒剤）を散布するか、出穂直前（ビーム剤又はトライフロアブル）と穂揃期（ラブサイド剤又ははトライフロアブル）に茎葉散布を行います。

②斑点米カメムシ類

○斑点米被害軽減のため、畦畔や農道等の草刈りは稲の出穂15～10日前まで徹底して行い、イネ科雑草の除去に努めましょう。

○水田内にホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの残草があると、アカスジカスミカメの増殖を助長するので、水田内の雑草対策を徹底しましょう。

熱中症対策には環境省の熱中症予防情報サイトを活用下さい



※クマにご注意下さい
クマに関する情報は
こちらから



秋田米栽培情報LINE
県内の水稻生育状況や水稻・大豆の技術情報、異常気象対策などの情報を発信しています。

